

「自分で一日をつくる」

校長 石田 雄介

先週はご多用のところ個別懇談においでいただき、ありがとうございました。

短い時間ではありましたが、お子さんの学校での成長の様子や学習の状況について保護者様と直接お話する貴重な機会となりました。今後も家庭と学校で情報を共有し、力を合わせて子どもを育てて参りましょう。

さて冬休みとなります。子どもたちには自分で自分の一日をつくる、自立的な毎日を過ごしてほしいと願っています。私は、子どもたちに次のような話をしました：

楽しい冬休みにするための合言葉を覚えていますか？

そう、「じ・り・つ」です。1年生は初めて聞きますね。

じ：「自分から進んでやる」冬休みに。

…あいさつ、学習、仕事など、何でも自分からやると気持ちいいですよ。

り：「リズムをくずさない」冬休みに。

…夜更かしして寝坊する、これが続いて体調を崩す、とならないように。

つ：「次のめあてを見つける」冬休みに。

…新年になったら、どんな自分を目指すか、見つけましょう。

「じりつ」を合言葉にして、健康で楽しい冬休みをすごしてください
年が明けたら、また元気に会いましょう。

子どもを育てる母体は、家庭です。そして子どもが長い時間を過ごす学校も、子どもを育てる場の一つであり、両者の目的は人格の完成です。ですから、学校では勉強さえしていれば良いのではなく、人とつながることができるコミュニケーション能力の育成も大きなミッションとなります。すなわち、「自立して社会で生きていくための基礎を培う場」、それが学校です。そしてこの目的に迫るには、ご家庭との連携が欠かせません。

変動性、不確実性、複雑性、曖昧性が増す VUCA（ブーカ）時代と言われる社会で、自立したくましく生きていくために必要な力とは何でしょうか。それは、“問題解決力”であり、当校ではその力を「未来を生きる力」として4つの力をグランドデザインに位置付け、教育課程を編成し実行しているところです。

インターネットが普及し、様々な知識や情報は誰もが容易に手に入れることができる時代となりました。しかし、様々な問題場面に遭遇した時に、自分で考えて判断し、行動していく力（思考力・判断力・表現力）は、教え込みでは育たない質の学力です。だからこそ、意図的に問題場面を設定し、子どもが自分で考えて解決を目指していく問題解決的な授業や教育活動・支援を私たちは取り入れ、教育を進めています。

教師が教える授業から、子どもが学ぶ授業へと転換すること、子どもが主体的・対話的で深い学びに至る学習活動・教育活動をつくり出すこと。難しい命題ですが、私たちは今年も日々子どもと向き合い、取り組んできています。

冬は家で過ごすことが多くなります。家族で集まる時には脱デジタルの時間を決めて楽しく話し、皆で団らんすることが、子どもの成長にとって何より望ましいようです。ぜひご家族で楽しく過ごすための約束や予定を立ててみられることをお勧めします。

健やかに子どもを育てるため、来年も頑張りましょう。良いお年をお迎えください。